

会話終結の始め方一次の活動の時間が決まっている場合一

中林由希子（京都大学大学院生）

1. 研究背景と研究課題

会話には終わりが来るが、急に会話を打ち切るわけにはいかない。電話会話を調べた Schegloff & Sacks (1973) によると、会話の終結は、一人でするものではなく、会話参加者たちがお互いに交渉しながら終わらせていく相互行為であると述べている。その会話を終わらせる交渉は会話の終結を示唆する発話(pre-closing)から始め、受け手が会話終結に同意することで終結部(closing section)に移行し、最終的に会話を終わらせることができるという。以下に例を示す。

(例) A: O.K. B: O.K. A: Bye bye B: Bye (Schegloff & Sacks, 1973: 371)

上記の例のように、会話の終結部では、Aによる会話を終結する発話(pre-closing)の“O.K.”があり、そのあとにBが“O.K.”と産出することで会話終結に同意し、別れの挨拶をし合う。このように会話の終結はいくつかのステップを踏む手続きである。会話終結の最初のステップであるpre-closingの方略にはいくつかあるが、そのうちの1つに“I gotta go”(行かなくちゃ)があると述べられており、会話を終わらせる理由になりえることを明らかにした¹。Schegloff & Sacks (1973)では、“I gotta go”のような会話を終わらせなければならない外部事情を示すことがpre-closingの方略であるという言及はあるものの、外部事情を示すpre-closingは体系的に記述されていない。日本語会話における終結部の研究は主に電話会話を調べており、pre-closingとなりえる発話の言語表現は「はい」や「じゃあ」であることがすでに明らかになっている(熊取谷 1992, 小野寺 1992)。しかしこれまでに、日本語会話の終結部、特に対面会話における終結部を体系的に検討している研究は少ない。筆者が終結部を含む対面会話のデータを収集したところ、終結部付近に時間を気にする表現(例「そろそろ」)と、時計を確認する身体動作が観察できた。Goodwin (2000)は、社会的行為はマルチモーダルな達成であると述べている。また人々の行為を見るには、言語や身体の動きだけでなく、その場の環境や目に見えるモノも考慮に入れるべきであるとも述べている。そうであるとなると、これまでの研究では、人々が「時計の確認」という身体動作をどのようにに会話を急に打ち切らない手段として用いているのか、そして「時計」というモノをどのように用いているのかという問題について検討が不十分である。そこで、本研究では、時間を気にする発話がどう終結の始まりとなるのか、そして人々が「時計の確認」という身体動作をどう相互行為に用いているかを調査する。

2. 分析するデータと方法

本発表では、筆者が収集した18の会話データ(合計10時間)から、終結部付近で時間を気にする表現と時間を確認する動作が含まれた事例6例と、『日本語日常会話コーパス』(小磯ほか, 2023)のデータから事例3例の全9例を分析した。それらの事例を身体動作を含めて文字起こしし、人々のそのときそのときのやり方を分析できる会話分析の手法(Schegloff, 2007)で分析する。

3. 分析

3.1 時間を気にする発話がなされる位置と時間の確認の身体動作が生じる位置

ある発話が終結部の開始として作用するには、その連鎖上の位置が重要であり、その位置とは、話題の終わりとして分析することができる場所であると述べられている(Schegloff & Sacks, 1973)。本節では、時間を気にする発話が産出される連鎖上の位置を、事例を通して見ていく。断片1では、7行目と9行目がpre-closingとなりえる発話である。このように分析できるのは、6行目でそれまでの話題が閉じうると理解可能だからである。詳しく見ていく。1行目まで涼子は、おせち料理は食べないが涼子の息子たちはお雑煮だけは食べたいと言っているという話を綾香にしていた。その話について1-2行目で綾香が涼子の息子たちに同意し、その意見に対し3行目で涼子是不満を示す声色で息を吐きながら産出している。綾香はその間飲み物を飲んでおり、涼子の発話が終わるころはまだ口に飲み物を含んだまま笑っていた。1.8秒の沈黙を挟み、

¹ 日本語ではpre-closingの方略の1つとして「外部事情を示す」ことが明らかになっている(岡本 1991)。

綾香が発話する(5行目)がその発話はこれまでの話題に新たな展開をもたらすものではない。その後の涼子の発話(6行目)はターンを取ったにもかかわらず、5行目の綾香の発話を受け止めるだけで、新たな話題を持ち出していない。そのような位置は話題の終わりとして分析することができる場所であり、新たな話題の導入ができる位置でもある。

話題の終了時に、新たな話題として綾香が開始したのは「時間」に関することである。この発話がどのように産出されたのか、さかのぼってみたい。お雑煮が食べたいという話題が完全に閉じる前、4行目の沈黙の際に涼子が腕時計を見ている。このことは涼子が4行目の沈黙を話題の終了と捉えた可能性を示唆している。涼子がこの位置を話題の終了だと捉えたのは、3行目の涼子の発話の完了可能点で綾香が口に飲み物を含んでいたとはいえ、1.8秒の間にはターン取らなかったからである。涼子はそのような、話題が終了し、新たな話題を開始できる位置で腕時計を見ている。腕時計を見るという身体動作を綾香にも見える形で示したことによって、綾香は「今何時:ゝ」という直前の行為に関連した発話がこの位置で産出可能になっている。「今何時」という発話自体は、厳密には会話終結を示唆する発話(pre-closing)ではないが、7行目の「今何時」は、その応答によってそのあとにpre-closingとなる発話に進むかどうかを決める前置き連鎖²の第一成分である。前置き連鎖の応答として「三十五分」(8行目)という時間を聞いた綾香は、涼子の次の活動の時間が近いことを知り、「もうそろそろですか」

断片1【院生室_A大学】((昼休み、院生室で、涼子(右)はこのあとゼミがあるためこの場を離れることを、二人は共通知識として持っている))

- 001 綾香: 何かでもわかります° ね。° (.)なんか、そうお雑煮食べたい、(.)な:ってなり
002 ますし:(0.3)おもち:が食べたいっていう° のもある°
003 涼子: .HH え h::そのためだけにお餅買ってもさ:: () も
004 (1.0)*(0.8)
涼子_Mov *自分の腕時計で時間を見る
005 綾香: .HH ¥おもちが¥
006 涼子: ん::んん
007 →綾香: 今何時:ゝ何時で[() -]
008 涼子: [三十五分]
009 →綾香: ↑あ、もうそろそ[ろですか?]
010 涼子: [なのでぼちぼ]ち片づけにかかろ[かな]
011 綾香: [そう]しましょうか
012 涼子: n 綾香さん*ここ-ずっとここにいる?
涼子_Mov *パソコンのアダプター抜く

断片2【大学食堂】

(大学の食堂で、美緒はこのあと授業に行くことが二人の共通知識としてある。1行目の前に香葉のよく中古の店にバッグが多く入荷したことが香葉によって話される。)

- 01 香葉: バッグがめっちゃ増えてた
02 (0.5)
03 美緒: バッグ欲しいって言っとったじゃん前。
04 (0.3)
05 香葉: でもなんか:(0.6)悪くないのもあっ*たんだ[けど:
美緒_Mov *スマホを裏返して画面を見る
06 美緒: [うん]
07 (0.2)@(0.4)
香葉_gaze @美緒のスマホ
08 香葉: なんか(0.8)ま(あ)の明らかに:(0.2)たぶん GU かユニクロ p-みたいな。
09 (0.3)
10 美緒: あ::まあなんか[量産]型み[んな持]ってる的な=
11 香葉: [うん] [うん]
(中略)
20 香葉: なんかもう>これはちがうな<白が欲しかったから:あ:これちがうな:と
21 思ってまだ悩み-な-悩みって(いう)-いいのにあたったら、
22 (0.2)
23 美緒: う:ん[うん]
24 香葉: [考え]*中。
美緒_gaze *下(スマホ)に視線を向ける
25 (0.4)@(0.2)
香葉_gaze @美緒のしているもの(スマホ)をのぞきこむ
26 →香葉: 美緒ちゃん時間もうそろそろじゃ[ない]
27 美緒: [そろ]そろ行きます[すね]*
美緒_Mov *マスクを取る

² 前置き連鎖 (pre-sequence) (Schegloff, 2007)は本題に進むための準備として、受け手にも理解できる。

を産出している。話題が終了し新たな話題を開始できる位置において産出された「今何時:む」（「もうそろそろですか」という発話産出のための準備）に続いて、産出されたことにより「もうそろそろですか」がpre-closingとして作用するといえる。

時計の確認という身体動作は、話題終了後という位置以外でも生じる。断片2（前ページ）では、26行目で「時間もうそろそろじゃない」という香菜の発話がある。その時間に言及する発話は、美緒が始めた3行目の発話に答えるための説明が終わったところ（＝話題の終了とみなせる位置）（24行目）で、美緒がスマートフォン（以下、スマホ）に視線を向け、それを見た香菜が美緒のスマホを覗き込みながら（25行目）産出している。実はそれよりさらに前の5行目で美緒はスマホを見ている。断片1と違い、美緒がスマホで時間を確認する動作をした位置は、話題の終了時ではない。断片2の1行目の前まで香菜はよく行く中古の店がリニューアルしていたというニュースを美緒に聞かせ、1行目にどう変わったかを端的に話している。3行目で美緒は、まだ香菜のニュースが続くとみて、話を促している。それを説明要求と受け取った香菜が説明を始める。美緒がスマホの画面を見たのは、話題終了後ではなく、香菜が説明を開始した時である。美緒がスマホを見たことは香菜も視認している。しかし、香菜は美緒の動作を視認した後もスマホの画面を見ることに関連した発話を産出せず、説明を続けることである。そのときも、香菜は説明はしているが、特に新しく会話を展開するわけでもなく、その間の美緒の反応も最低限であり、会話を展開するようなものではない。そして香菜が説明を終え、話題が終了したと思われる位置で再度美緒による時間の確認をする動作があり、26行目で香菜が「もうそろそろじゃない」を産出する。断片2から明らかとなることは、時間を確認する動作が連鎖途中にあれば会話をすることを優先し、時間への言及は話題の終了を待ってから産出されるということである。断片2では話題の終了と、香菜の説明中に会話を展開させるような反応をしなかったことも相まって、26行目の位置での時間に言及することがpre-closingとして作用している。

本節で明らかになったことは、時間を気にする発話が話題の終了と捉えられる時点で産出されたことにより、時間を気にする発話がpre-closingとして作用していることである。さらに時間を気にする発話の前には、時計を確認してみせるという身体動作があり、その身体動作を視認することで時間を気にする発話を産出することができるということである。

3.2 時間に言及する発話と時間を確認する動作を用いることが、会話終結に用いられること

断片1, 2では、次の活動に行く者（去る側）が、時間を気にして時計を確認する身体動作をして見せていた。そしてその身体動作を見た他の会話参加者が、時間を気にする発話をするることによって終結部が始まっていた。時計を確認する身体動作を次の活動と関連付けて時間を気にする発話が産出できたのは、会話参加者間で次の予定についての共有がされていたからである。

次の断片3は会話参加者間で次の予定について共有していない事例であるが、断片1, 2と同じように時間に言及する発話と、時間を確認する動作が見られる。

断片3は、塚田が節子・秀夫夫婦の家に訪ねた際の3人の会話である。断片3を見ると、それまでの話題が完了可能な6行目で、塚田は節子の後方にある部屋の掛け時計の方を見る。時計を見ながら「さあ：それじゃまあ：そろそろ。」（8行目）と発話する。位置を見ると、8行目の発話はpre-closingになりえる発話である。しかし、「そろそろ」という時間の言及、すなわち次の活動に移ると示唆している発話を受けても、節子と秀夫は特に塚田の発話について反応しない。9行目で塚田が「めしでも食わないかな」と、「そろそろ」示す活動に言及してはじめて、節子と秀夫が掛け時計を見ろという反応を見せる（9行目）。節子が時間を掛け時計

断片3（T007_005b 26:09.880-26:25.500）

（（塚田が節子・秀夫夫婦を訪問して話している。塚田の子どもが近所に住んでいるという話が直前にあった））

- 01 節子： 近くにいるからいいね。
 02 塚田： そうそうそう。
 03 節子： うん。
 04 (1.5)
 05 節子： 何かの時には。
 06 (4.3)*(0.3)
 塚田_gaze *掛け時計
 07 →塚田： さあ：それじゃまあ：そろそろ。
 08 (0.4)*(0.5)
 節子_gaze *下
 09 塚田： めしでも食わない*かな*：
 節子_gaze *掛け時計
 秀夫_gaze *掛け時計
 10 節子： ° 今何時°
 11 (0.6)
 12 節子： [あ(.) [十一時半]か。うん。]
 13 塚田： [十一時半 [(.) (じゅ)っぶん)]
 14 秀夫： [う：ん]
 15 塚田： じゃちょっと終わりにしよ。((clap))
 （（収録終わり））

で確認し、「うん」と納得したような発話を産出したことにより、8行目の pre-closing が参加者間で合意され、塚田は15行目でデータ収録を終えることができています。断片3の塚田が持ち出した次の予定は、断片1や2の授業やゼミがあるという本当の予定とは異なり、会話を終わらせる理由として用いられているように見える。だが、いずれの場合にしても次の活動に移行しようとしている側が時間を気にしているそぶりを見せ、それをきっかけに時間に言及することが会話を終わらせるために人々が用いている手段だと言える。

4. まとめ

本研究では、終結部付近で見られる時間を気にする発話と、時間を確認する動作が見られる対面会話の事例を分析し、それらが生じる位置を見てきた。時間を気にする発話は、話題が終了したと捉えられる位置で生じていた。時間への言及は何の前触れもなく産出されたわけではなく、時間に言及する前には、次の活動に行こうとしている者（去る側）によって時計を確認する身体動作が見られた。去る側による時計を確認する身体動作を見た他の会話参加者が、あらかじめ共有されていた去る側の次の予定に関連付けることによって、時間を気にする発話を産出することが明らかになった。また、次の予定という外部事情がない場合にも、参加者による時間を気にするそぶりや時間を気にする発話は会話を終わらせる手段として人々が用いる会話を終結させるための手段であることも明らかになった。時間を気にする発話に先立って生じる時計の確認という身体動作が会話の終結を始めるものとしてあり、時間を確認する動作を対話者に見える形で行うことが、会話終結の始め方の1つであることを示した。

Pre-closing に先立つ身体動作が終結に関わる要素であるという議論は、Haddington (2019)³が示した降車を示唆する車の減速やハザードランプをつけるといった言語外の要素に近い。しかし、時計、特にスマホを見るという身体動作が常に時間を確認しているとは言えないはずだ。スマホは画面上に多くの情報があるからである。そうであるにもかかわらず、断片2に見られるように、香菜（残る側）が美緒（去る側）の「スマホを見る」という身体動作を「時計を確認した」と理解したのはなぜなのかという疑問が残る。時間以外の情報を得ることができる媒体を見ることが、会話参加者たちにとって「時計の確認」であると理解可能になることについては今後の課題としたい。

謝辞

本研究は、京都大学人間・環境学研究科「学術越境プログラム」の助成を受けて行われたものです。本研究の分析には、会話分析研究会の皆様、京都大学横森大輔研究室関係者の皆様にアドバイスをいただきました。またデータ収録に協力してくださった皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- Goodwin, C. (2019). *Co-operative action* Cambridge University Press.
- Haddington, P. (2019). Leave-taking as multiactivity: Coordinating conversational closings with driving in cars. *Language & Communication*, 65, 58–78.
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香 (2023). 『日本語日常会話コーパス』設計と特徴 国立国語研究所論集, 24, 153–168.
- 熊取谷哲夫(1992). 「電話会話の開始と終結における『はい』と『もしもし』と『じゃ』の談話分析」『日本語学』11, 9, 14–25.
- 小野寺典子 (1992). 「エスノメソドロロジーにおける電話会話の研究と日本語データへの応用」『日本語学』11, 9, 26–38.
- 岡本能里子 (1991). 会話終結の談話分析 東京国際大学論叢商学部編, 44, 117–133.
- Schegloff, E. A. (2007). *Sequence organization in interaction*. Cambridge University Press.
- Schegloff, E. A., & H. Sacks (1973). Opening up closings. *Semiotica* 8, 239–327.

³ Haddington(2019)は同乗者を車で送った際に生じる会話の終結について研究した